

2023年12月31日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 28 「キリストと一つになる食事」

創世記2：21～24、Iヨハネ4：13～16

問75 あなたは聖晩餐において、十字架の上でのキリストの唯一の犠牲とそのすべての益にあずかっていることを、どのように思い起こしましたか、確信させられるのですか。

答 次のようにです。キリストは御自身を記念するため、この裂かれたパンから食べ、この杯から飲むようにと、わたしとすべての信徒にお命じになりましたが、その時こう約束なさいました。第一に、この方の体が確かにわたしのために十字架の上でささげられ、また引き裂かれ、その血がわたしのために流された、ということ。それは、主のパンがわたしのために裂かれ、杯がわたしのために分け与えられるのを、わたしが目の当りにしているのと同様に確実である、ということ。第二に、この方御自身が、その十字架につけられた体と流された血とをもって、確かに永遠の命へとわたしの魂を養いまた潤してください、ということ。それは、キリストの体と血との確かなしるしとしてわたしに与えられた、主のパンと杯とをわたしが奉仕者の手から受け、また実際に食べるのと同様に確実である、ということです。

洗礼のところと同様、ここでも「どのように思い起こしましたか、確信させられるのですか」と問うています。この「思い起こす」はただ思い出すことではなく、その出来事が時を超えて現在化し、自分自身の身に起こる、いわば「追体験」です。そしてそこで具体的に体験することは、イエスさまの犠牲とその命に養われる体験です。わたしたちは聖餐の時に一切れのパンと小さなカップに入ったぶどうジュースに与りますが、パンはイエスさまが十字架で裂かれた体を、ぶどうジュースは十字架で流された血を表しています。それに与ることでイエスさまの十字架の犠牲を思い起こすのです。わたしたちの教会ではパンは既に切って配られますが、教会によっては牧師が実際に聖餐桌のところでパンを裂く行為をする教会もあります。神学校時代に隣のルーテル神学校との合同礼拝があって、聖餐の時は、順番に前に進み出て、一つのパンを自分でちぎって食べる方式でした。「ちぎる」「裂く」という行為が重要なのです。聖書でも使徒言行録には「パン裂き」という言葉で聖餐のことが記されています（使徒言行録2：42）。それはイエスさまがわたしたちのために十字架でその身を裂いてくださったこと、血を流してくださったことをリアルに体験するために他なりません。

そしてもう一つは、そのイエスさまの捧げられた命によって養われるという体験です。わたしたちは食べ物体が養うことを体験的に知っています。また飲み物が渴きを潤すことを知っています。それは知識として頭で理解しているというよりも日々の生活の中で実際に体験していることです。礼拝において聖餐のパンを食べ、ぶどうジュースを飲むことで、わたしたちはイエスさまの十字架で捧げられた命によって養われ、潤されていることを追体験するのです。そのようにイエスさまの犠牲と命の養いは目で見て、自分の舌で味わうほどに確実なものです。先週はクリスマスを祝いました。ある方が「イエスさまがお生まれになったこと、十字架で死なれたことは事実ですよ」としみじみと言われました。そうです。神さまの独り子イエスさまは本当にお生まれになられて、この地上での生活をなされ、十字架で死なれました。十字架の死は西暦の紀元30年4月7日金曜日と日にちまで特定されています。ですからそれは空想の物語ではなく事実です。その出来事を二千年経った現在も聖餐を通してわたしたちは豊かに体験することができるのです。それは神さまがわたしたちの信仰を確かなものとするために備えてくださった恵みの手段に他なりません。

問76では、その聖餐に与る意味をさらに踏み込んで説明しています。

問76 十字架につけられたキリストの体を食べその流された血を飲むとはどういうことですか。

答 それは、キリストのすべての苦難と死とを、信仰の心をもって受け入れ、それによって罪の赦しと永遠の命とをいただく、ということ。それ以上にまた、キリストのうちにもわたしたちのうちにも住んでおられる聖霊によって、その祝福された御体といよいよ一つにされてゆく、ということです。それは、この方が天におられ、わたしたちは地にいるにもかかわらず、わたしたちがこの方の肉の肉、骨の骨となり、ちょうどわたしたちの体の諸部分が一つの魂によってそうされているように、わたしたちが一つの御霊によって永遠に生かされ、また支配されるためなのです。

ここではイエスさまと一つになることが強調されています。これは洗礼において「キリストの一部として聖別される」(問70)ことが聖餐においていよいよ深められ確かにされることでしょう。「その祝福された御体といよいよ一つにされてゆく」とあります。わたしたちは自分一人で救いに至るのではありません。わたしたちはイエスさまに結ばれ、その体に合わせられて神の子とさせていただくのです。

洗礼を受けてイエスさまに結ばれた者は、地上においても既にこの神の子への歩みを始めています。それを教会の言葉で「聖化」と言います。これまでの信仰問答でも「キリストの栄光の御体と同じ形に変えられる」(問57)「次第次第に罪に死にいつそう敬虔で潔白な生涯を歩む」(問70)とありました。わたしたちは少しずつイエスさまの姿に変えられます。最終的にそれは終末における完成を見据えています。それまでわたしたちは神の子としての歩みを止めずに、持ちこたえて行かなければなりません。そのために聖餐という食事が備えられているのです。

今年のクリスマスも病床の方々、高齢の方々を中心に訪問して可能な限り聖餐を行いました。何とか信仰を保って欲しいという一心です。この地上はあまりにも誘惑が多く、一人では信仰を保つことができません。しかし、ともに主の食卓を囲む信仰の友、家族がいるのです。食卓は「同じ釜の飯を食う」というように、その連帯、一体性を養います。そして何よりイエスさまがわたしたちをとらえ「わたしの骨の骨、肉の肉」(創世記2:23)としてくださる。わたしたちと一つでいてくださいます。天上から地上までその愛を届け、その御体に連ならせてくださいます。だからこそわたしたちはこの世でも何とか信仰を保つことができるのです。聖餐の食卓を囲むとき、どうぞこの神さまの愛を感じてください。

(問77は聖餐の制定の聖書箇所、聖書的根拠なので割愛します。)

天の父よ。天と地を貫いて、イエスさまとわたしたちを一つにするために、この聖餐の恵みが備えられています。イエスさまの十字架の犠牲により、わたしたちが罪から解放され、永遠の命に養われております。どうぞこのことを聖餐を通していよいよ確かにしていくことができますように。明日からの新しい年も主に結ばれている喜びをもって歩み出すことができますようにお導きください。主の御名によって祈ります。アーメン。